



JAPAN FUND for GLOBAL ENVIRONMENT

地球環境基金

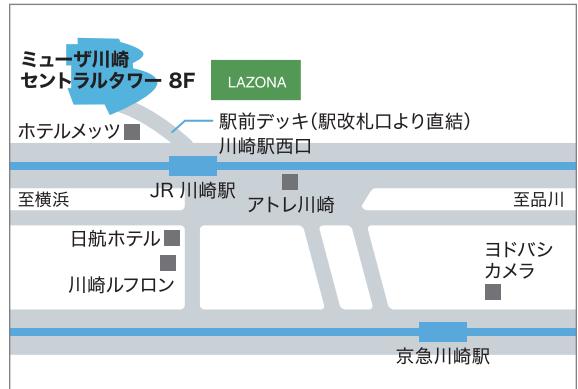


独立行政法人 環境再生保全機構 地球環境基金部

住所:〒212-8554
神奈川県川崎市幸区大宮町1310番
ミューザ川崎セントラルタワー8F

電話: 044-520-9606
FAX: 044-520-2190

URL: <http://www.erca.go.jp/jfge/>
Twitter: http://twitter.com/ERCA_kikin



独立行政法人
環境再生保全機構

地球環境のため、 一人ひとりの思いを集めて大きな力に

1980年代後半以降、地球環境問題が深刻化する中、1992年6月、ブラジルのリオデジャネイロにおいて「環境と開発に関する国連会議」(地球サミット)が開催され、国や地方公共団体、企業だけでなく民間の非営利団体(NGO・NPO)による取組みの重要性が認識されました。

これを受け、日本では当時の環境庁が中心となり、民間団体(NGO・NPO)による環境保全活動への支援を行い環境保全に向けた国民的運動の展開を図ることを目的として、1993年5月に「地球環境基金」が創設されました。

今日でも、地球上では二酸化炭素による温暖化、熱帯林の減少や砂漠化の進行だけでなく生物多様性の損失等様々な環境問題が深刻化しています。私たちの経済社会の生産活動や日ごろの行動は、知らず知らずにごく身近な環境に影響を与え、ひいては地球規模の環境にまで影響を及ぼしています。このような地球環境問題に対処していくためには、国や自治体、企業だけでなく、民間団体の自主的な取組が必要不可欠となっています。

このような状況の中で、民間団体(NGO・NPO)の活動は、問題が生じればすぐに行動する機敏性、地元のニーズに基づく地域密着性や国境を越えて活動する柔軟性をもち、その活動に大きな期待が注がれています。

地球環境基金は、このような背景を踏まえ、環境NGO・NPOに更なる支援の充実を図るとともに、環境保全活動を行う次世代の人材育成に力を入れて持続可能な社会の実現に貢献していくことを掲げ、果たすべき役割を次のように定めました。

地球環境基金のビジョン

これからの中社会は、市民一人ひとりの思いや志を、行動に変え、様々な環境諸課題を解決することが大切です。

環境NGO・NPOは、現場での活動を通じて、こうした一人ひとりの取組みや声、行動を結びつけ、社会の共感を得ながらその取組みの輪を広げ、良好な環境の創出につなげるという、大きな役割が期待されています。

活動の輪の広がりは、それぞれ特有の生活、文化、経済を背景とした地域でのものから、多様な考え方や生活文化を持つ人々が関わる国際的、地域的規模のものまで、様々なレベルで必要となっています。その核となるべき環境NGO・NPOの活動もまた、多様なものになることが期待されています。

地球環境基金は、環境NGO・NPOの自主性、自立性、多様性を尊重しつつ、他の支援組織や事業者、行政と協力し、その活動を支援することを通じて、私たちの将来の世代に、豊かに生きる基盤である地球を引き継ぐことができる、持続可能な社会の実現に貢献します。

地球環境基金のミッション

1 環境NGO・NPOは、持続可能な社会づくり、環境保全に欠かせない存在となっていました。今後、さらに資金力の強化及び、専門力、提案力、動員力、発信力など、活動を支える力を強化すること、また、各々が自主性、自立性、多様性を尊重しつつ、他の主体との連携・協働を強化することなど、その機能を高めていくことが重要です。

その活動が充実するにつれて、市民から共感・信頼を得、活動がより大きくなり、経済や社会を変え、よりよい環境を作り出していくことが期待されます。

そうした期待に応え、共感・信頼される環境NGO・NPOが質的に量的にも充実するよう、また、機能強化につながるよう地球環境基金は支援の拡充を目指します。

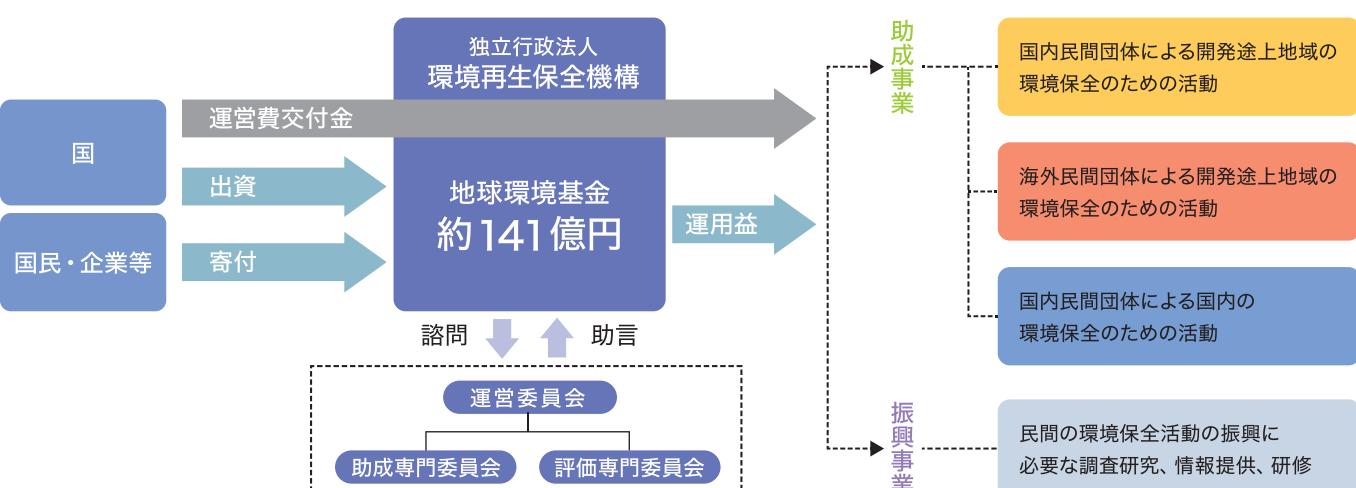
2 持続可能な社会には地域での取組みが欠かせません。地域作りを担い、地域に貢献できる活動を大切にするとともに、その地域活動が各主体との連携・協働などにより「孤」から「環」に広がるよう地球環境基金は、環境NGO・NPOを支援して参ります。

また、環境問題は国境を越え、地球大につながっています。取組みの環が世界へつながり、広がっていくよう、地球環境基金は、国際的視野をもって、環境NGO・NPOを支援して参ります。

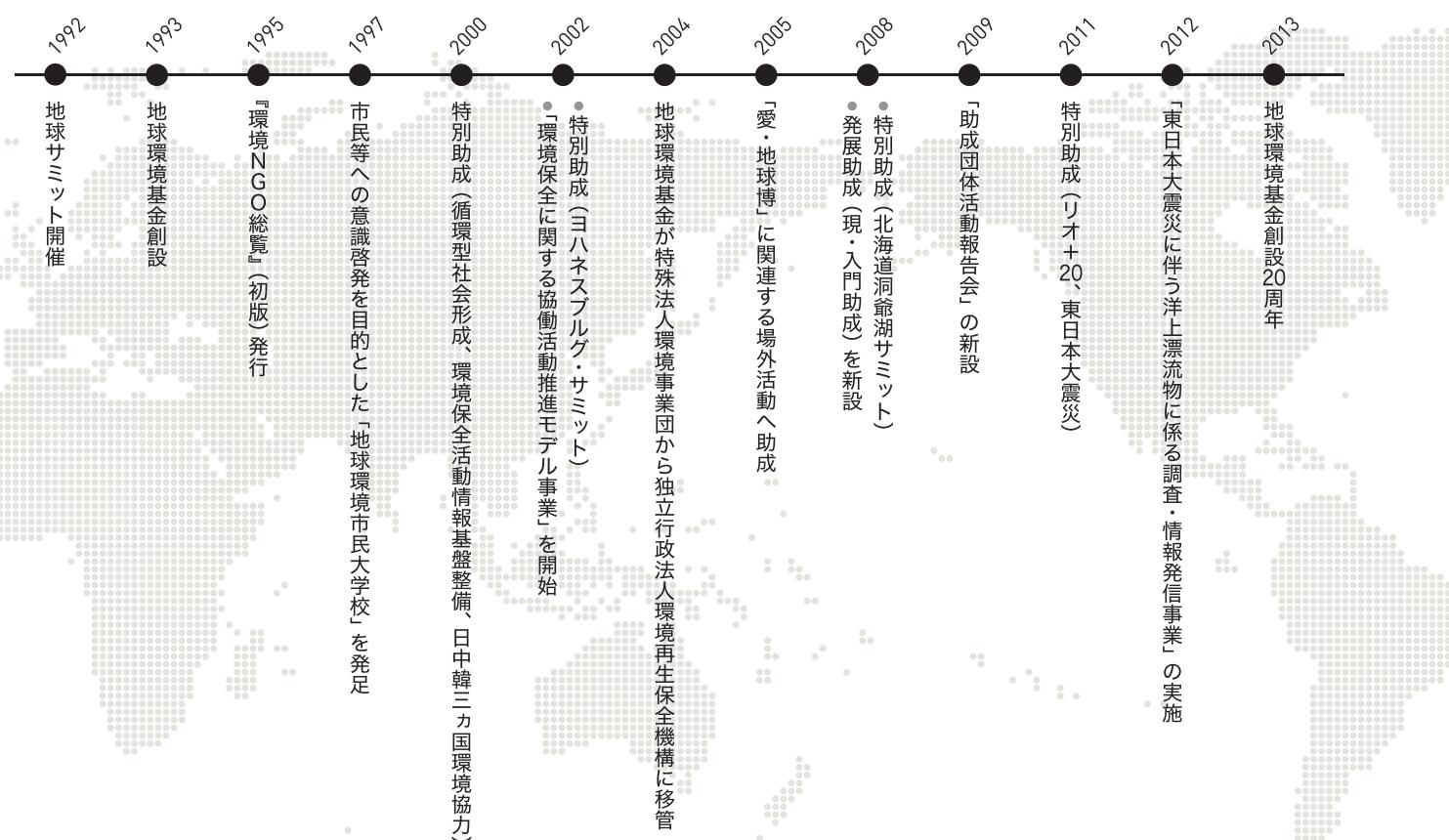
地球環境基金のしくみ

地球環境基金は、国からの出資金と民間からの寄付金によって基金を設け、その運用益と国からの運営費交付金を用いて、日本国内外の民間団体(NGO・NPO)が行う環境保全活動へ支援を行っています。また、基金は、有識者による委員会の助言を得て運営されています。

地球環境基金の 2つの事業	助成事業	振興事業
	環境保全活動を行う民間団体(NGO・NPO)の活動に助成金の交付を行います。	環境保全活動の全般的な振興を図るため、環境保全活動を行う民間団体(NGO・NPO)や、環境保全活動に関心のある人々への情報提供、調査研究、研修事業を行います。



地球環境基金のあゆみ



助成事業

多様な環境保全活動を資金面でサポート

現場での保全活動から、政策立案、環境教育まで——。民間団体が行うさまざまな環境保全活動に対し、資金助成を行います。財団法人、社団法人、特定非営利活動法人（NPO法人）のほか、任意団体なども対象としています。

● 対象となる活動

イ 国内民間団体による開発途上
地域の環境保全のための活動

ロ 海外民間団体による開発途上
地域の環境保全のための活動

ハ 国内民間団体による国内の
環境保全のための活動

● 活動分野

自然保護・保全・復元



オオタカ保護基金
野生生物の保護のための生態調査、生息地等の保全等、渡り鳥の保護、外来生物対策、鳥獣保護管理等

循環型社会形成



廃棄物の発生抑制、再使用、再生利用の促進、廃棄物の適正処理及び不法投棄防止等

森林保全・緑化



全国的に見て貴重な森林の保全、砂漠地以外の山野、荒廃地の植林・緑化、二次的自然林（里山）の保全等

大気・水・土壌環境保全



大気汚染防止、河川湖沼等の質汚濁防止、海洋環境保護、土壤汚染対策、有害化学物質対策の推進等

砂漠化防止



砂漠地とその周辺での植林绿化、適切な灌漑推進等

総合環境教育



環境意識の啓発と高揚等のための総合的な環境教育・学習の推進、環境教育を通じた環境保全活動を実施する人材の育成等

環境保全型農業等



アグロフォレストリーの推進、自然農業技術の開発・利用の推進、環境教育を通じた環境保全活動、棚田の保全等

総合環境保全活動



環境配慮型まちづくり、グリーン購入や環境ラベル等の取組み、環境政策提言のための調査研究等

地球温暖化防止



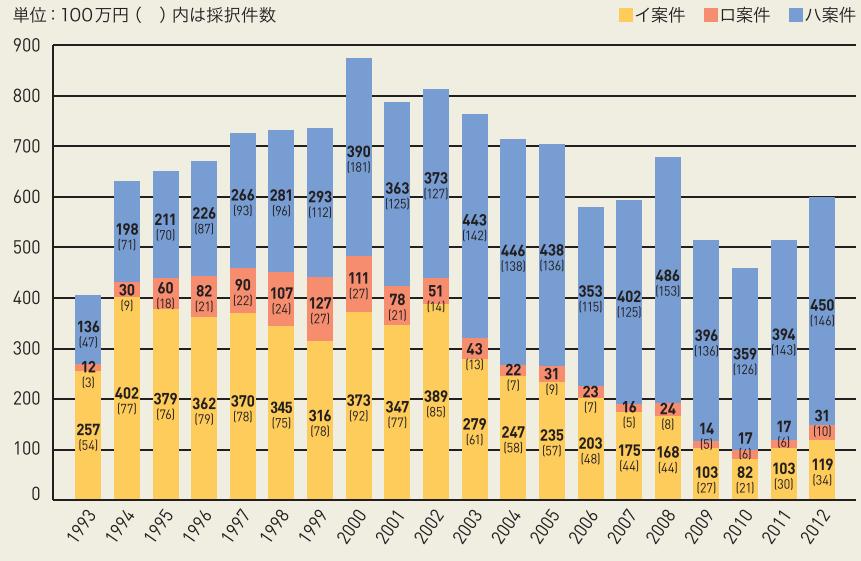
温室効果ガスの排出抑制、開発途上地域における地球温暖化への適応促進等

東日本大震災関連活動

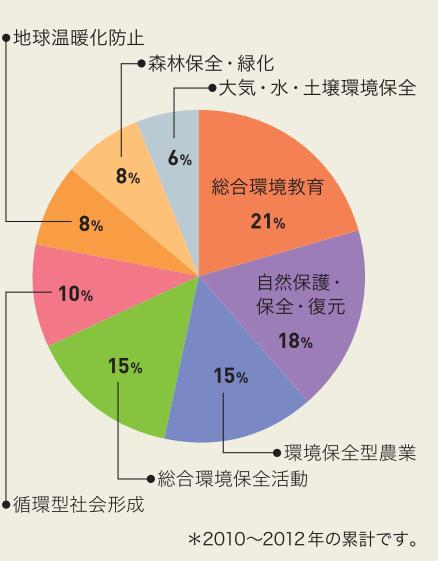


東日本大震災に関連する環境保全活動等

■ 助成金額と件数の変遷



■ 主な活動分野の内訳



*助成目的や成果を“見える化”するため、これまでの助成メニュー「入門助成」「一般助成」「特別助成」を平成26年度より6メニューに細分化しました。

助成団体によるプロジェクトの例

活動分野：循環型社会形成

インレー湖流域の自然資源利活用による環境改善プロジェクト
～持続可能な循環型社会を目指して～

団体名
(特非) 地球市民の会

DATA
所在地：佐賀県佐賀市
<http://terrappeople.or.jp/>

森林伐採・湖水汚染が進むミャンマー・インレー湖周辺において、地域住民による自然共生社会の創造を目指す3ヵ年協働プロジェクトです。50,465本の植林、湖の水草を活用した循環型農畜産の技術講習・指導者養成、モデルファームでのトマト栽培等を実施。現地では作物共同出荷のコミッティも組織されました。



活動分野：大気・水・土壌環境保全

中国企業の「グリーン・サプライ・チェーン」モデル事業

団体名
(特非) 東アジア環境情報発伝所

DATA
所在地：東京都千代田区
<http://www.eden-j.org/>

中国の環境NGOネットワーク「緑色選択連盟」(GCA)と連携し、中国における日系企業のサプライチェーン管理を検証。汚染を出さないグリーン化のモデル事業実現に取組んでいます。GCAレポートの和訳、円卓会議開催などを通じGCAと企業の意思疎通を支援。環境における日中民間協力を進展させています。



活動分野：総合環境教育

ESD指導者養成のための「循環(エネルギーと森の更新)」の森づくりプロジェクト

団体名
(特非) 岩手子ども環境研究所

DATA
所在地：岩手県葛巻町
<http://www5d.biglobe.ne.jp/~morikaze/>

標高700mの廃校跡を開校した「森と風のがっこ」に隣接する森に、ESD(持続可能な開発のための教育)を取り入れた視点で森林と子どもをつなぐ体験フィールド「循環の森」を整備。林業体験などのESDプログラム、ESD指導者研修などを実施しています。他団体への森林活用案提供なども広がっています。



活動分野：環境保全型農業等

マレーシア・ボルネオ島サラワク州における地域住民参加による持続的な熱帯雨林再生システムの構築を通じてのESDの可能性の検証

団体名
(公社) 日本マレーシア協会

DATA
所在地：東京都千代田区
<http://www.jma-wawasan.com/>

マレーシア・サラワク大学、日本の大学などと協力し、地域住民リーダーに対する環境保全型農業の技術指導や、両国の学生が参加するESDプログラムを実施。地域住民リーダー主導による環境保全型農業の導入や、両国の多様なネットワーク構築が実現しています。平成25年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰。



この他にも、多くの助成団体により多様な活動が行われています。

INTERVIEW

大学から 気候変動を止めるための挑戦

団体名
(特非) エコ・リーグ

全国の大学の二酸化炭素排出量や温暖化対策を調査し、キャンパスの環境対策の活発化を目指すキャンパス・クライメイト・チャレンジ。地球環境基金の助成を得て行われるこの活動は、学生や大学関係者の環境に対する意識と行動を、着実に変えてきました。

日本初の 「エコ大学ランキング」

北橋みどりさん(以下、北橋) キャンパス・クライメイト・チャレンジ(以下CCC)は、もともとアメリカで行われていた、学生による大学の温暖化対策のランク付け活動をヒントに生まれました。私たち、学生による環境NPOエコ・リーグでは、2007～2009年、若い国際環境人材を育成するプロジェクトに対し、地球環境基金から助成を受けていました。その一環で、海外の取組みを学ぶためアメリカのCCCに参加。そのときのメンバー間で「これはやるしかない」と思いが一致し、活動をスタート、2009年に「第1回エコ大学ランキング」を発表しました。

エコ大学ランキングは、全国約750の大学に、200項目以上にわたる独自の調査票を送付して大学の温暖化対策を調査。結果を集計し、ポイントの高い大学をランキング形式で発表するものです。幸い、第1回の発表は大きな注目を集めました。

私たちはこの活動を継続的に発展させていきたいと考え、2010年以降はCCC事業として地球環境基金の助成をいただいているます。



助成金があるからこそ 開始・継続できる

小竹舞さん(以下、小竹) 助成金は主に、調査票の印刷・郵送費や、調査結果の報告書の制作費用、学生や教職員の方々に向けたイベントの開催費用に使わせてもらっています。また、報告書をまとめるにあたり、各大学に取材に行く交通費にも充てています。

私たちは、現場で環境対策に取組む人た

ちに実際に会うことが、自分たちの活動の原点だと思っています。というのも、大学における環境対策の課題は、直接伺わない部分が多いです。学生と教職員の協働が非常に進んでいる大学があれば、学生は環境サークルでがんばっている一方、教職員とのつながりがないために活動が外に発展しないところもある。それの課題や、それに対し私たちができること、すなわちCCCに対するニーズを発

掘するためには、やはり直接お話を伺うことが欠かせないと感じています。北橋 エコ・リーグはやはり学生が中心の組織です。みな、バイトをする時間もないくらい一生懸命に活動に取組んでいます。そこで、さらに自己負担で郵送費や交通費を出すというのは難しい。やはり、助成金がなければ、このCCCのプロジェクトには踏み切れなかったと思います。

温暖化対策に取組む大学を 増やすには

北橋 プロジェクトを始めるにあたり一番苦労したのは、海外で始まったCCCを日本

り苦労してその部分の検討を重ねました。結果として、順位発表は上位のみ、しかしこの依頼には私たち自身も驚きました。やはり、一学生団体ではなく、NPO法人として責任を持って活動に取組んでいるからこそ、信頼いただけたのだろうと思います。

小竹 一方で、環境対策がまだ進んでいない大学をどう支援していくかも、これから私たちの課題です。いま、大学の環境対策担当者と一緒に対策の計画づくりを行うことや、大学の学長や経営層に「環境対策を行います」という宣言をしてもらうといった方法を考えています。

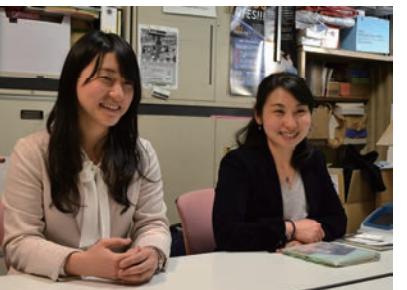
NPO法人としての信頼を得て

北橋 最初に日本でエコ大学ランキングをやりたいと思ったころ、日本の大学には環境活動を行う学生団体が250ほどありましたが、温暖化に対する活動を行う団体はゼロでした。しかしいま、地球温暖化に対しては学生も大学ももちろん取組まなければならないという土壤ができてきましたし、エコ大学ランキングもメディアに多く取り上げられ、「エコ対策に積極的に取組むことがいまの潮流だ」という認識も広がってきたと思います。その土壤づくりを、エコ・リーグが少なからず引っ張ってこられたのではと感じています。

小竹 私たちが積み重ねてきた取組みは、大学の担当者や教職員の方々にも注目されています。2014年、京都大学や北海道大学が中心となり、環境負荷が少なく持続可能なキャンパス構築を推進する「ステイナブルキャンパス推進協議会(CAS-Net JAPAN)」が発足しました。そこで、大学の環境対策の評価指標づくりも行われているのですが、その指標の妥当性を検証するためのデータがない。そこで、CAS-Net JAPANからエコ・リーグに対し、私たちが持っているデータで指標を試してみてもらえないかという依頼があったんです。もち

ろんお引き受けし、結果に対し私たちからアドバイスなどもさせていただきました。この依頼には私たち自身も驚きました。やはり、一学生団体ではなく、NPO法人として責任を持って活動に取組んでいるからこそ、信頼いただけたのだろうと思います。

今後は、一緒に活動する学生メンバーをさらに増やし、その人たちをエコリーダーとして育成し、活動をさらに全国に広げていきたいと考えています。



CCCの創設にかかわった北橋みどりさん(右)、現CCC実行委員長の小竹舞さん(左)

特定非営利活動法人エコ・リーグ

所在地: 東京都新宿区
<http://el.eco-2000.net/>

次世代につないでほしい活動です



環境再生保全機構
地球環境基金部
地球環境基金課
堀越 佳奈子

環境保全活動に取組むNGO・NPOには若手の人材育成が課題である団体が少なくない中、エコ・リーグは学生が中心となり、大学の教職員の方々をも巻き込んだ活動をされている点が非常に優れていると思います。貴重な活動の蓄積を、ぜひ次の世代にもつないでほしいと思います。

Campus Climate Challengeのあゆみ

2004年

米国のCCCを行っている団体の代表者が、CCCを各団体の学生と協力して行うために来日し、エコ・リーグで会合を開催。

2007～2009年

若者のエコリーダーを育てる国際人材育成事業に対し、地球環境基金より助成を得る。その一環で2008年にCCC実行委員会を結成。

2009年

第1回エコ大学ランキングを発表。(以後、毎年)

2010年

CCCの事業に対し、地球環境基金より助成を得る。(2010年～2012年)

「年度ごとに基金へ提出する報告書の作成は大変です。でも、それが活動を振り返る機会になり、モチベーションアップや組織の発展に役立っています」(北橋さん)

2011年

第3回エコ大学ランキング発表。前回上位にランクインしたことがインセンティブとなり、対策がさらに進んで太陽光発電量が2倍近く増加した大学も。

2012年

地球環境基金が開催する環境保全戦略講座(地球温暖化防止分野)にメンバーが参加。

「テーマは国際交渉。自分の取組みは国内中心なので、国際会議などには興味はあっても勉強が行き届かない部分がありました。そこを学べる貴重な機会になりました」(小竹さん)

2013年

第5回エコ大学ランキング発表。より効果的な大学の環境対策評価を目指し、エコ大学ランキングの指標を大幅に改訂。対策が進んでいない大学への支援の検討も始める。

環境保全活動を担う人材や団体を育てる

民間団体による環境保全活動をより実り多いものにするためには、資金面のサポートだけでなく、活動についての情報や、人的なサポートも必要です。地球環境基金では、環境保全活動を担う方々を育てる活動にも力を入れています。

事業分野

調査研究

国内外の環境NGO・NPOの活動状況を毎年アンケート調査する「環境NGO・NPO活動状況調査」をはじめ、環境保全活動に関するさまざまな調査・研究を行っています。

情報提供

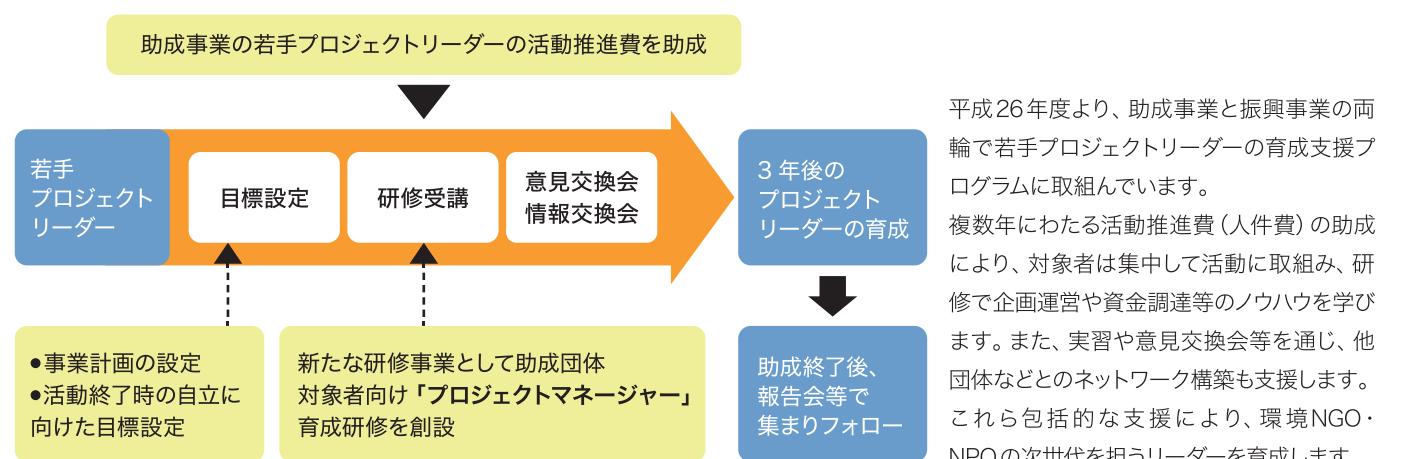
ホームページや報告会、報告書等による情報提供を行っています。「環境NGO・NPO活動状況調査」の結果は「環境NGO・NPO総覧オンラインデータベース」として公開しています。

研修・講座

環境保全活動にたずさわる人材の育成、組織強化、運営ノウハウの提供等を目的に、研修・講座を毎年全国で開催。国際協力の推進に関する海外派遣研修も実施しています。

多彩な研修・講座でNGO・NPOをサポート

若手プロジェクトリーダー育成への新たな支援



スタッフ向け、リーダー・マネージャー向け実践研修

環境保全に取組むNGO・NPO等のスタッフに向けた、資金獲得、人材育成、広報戦略、プロジェクト管理等の実践的な内容の研修や、リーダー、マネージャー等を対象とした、組織運営におけるさまざまな課題を解決に導くための仕組み・戦略策定に必要な知識向上、スキルアップを図る研修です。



海外派遣研修

環境保全に取組むNGO・NPOのスタッフ等を、海外の開発途上地域の活動現場等に20日間程度派遣して行う研修です。開発途上国の環境問題の現状について理解を深め、今後の環境保全活動に役立つ知識や技術を習得します。また、現地で活動する国際NGOや国際機関とも交流し、日本の環境NGO・NPOによる国際協力の振興と人材育成を図ります。



研修・講座の参加者・講師の声

NPOの広報で もっと大事なものは何かを学べました

スタッフ向け研修の「伝わる広報実践スクール」に参加しました。素晴らしい一言です。いままでは広報のどこにお金をかけるべきか分からなかったのですが、自分たちが努力すべき点と人にお願いすることの線引きに迷わなくなりました。SNSの使い方等はもちろん、NPOの原点である「思い」をどれだけ伝えられるかが大事だと教えられ、雲が晴れる思いでした。



(特非)食育推進ネットワーク福岡
雪田千春さん

自分たちの活動を「どう見せていくか」という視点を得られました

自分がリーダーを務めるプロジェクトの今後の展開にヒントを得たいと思い、リーダー・マネージャー向け研修に参加しました。企画やマネジメントの理論を、実際にどうプロジェクトに落とし込むかを実践でき、また、実習で他団体のマネジメントの現場も体験できました。「自分たちの強みを外に対しどう価値付けしていくか」という視点を得られたことも非常に勉強になりました。



(公財)オイスカ
高田絵美さん

レクチャー、実習、実践が織り込まれた充実のプログラム

環境保全戦略講座(生物多様性保全分野)で講師を務めました。この講座は、理論を学ぶレクチャーと生物多様性保全の現場を歩く実習に加え、参加者それぞれが学んだことをもとに行動計画を作成し、約1ヵ月後に成果を報告しあうフォローアップ研修までが含まれる充実した内容です。参加者の年齢層も幅広く、単なる研究に止まらず「どう伝えるか」までを学びあえました。



滋賀県高島市元市長
海東英和さん

開発途上地域で“現場のキーマン”的重要性を実感

海外派遣研修に参加しインドネシアに行きました。国立公園と住民の協働の現場、パーム油プランテーションなど約10ヵ所を訪問しましたが、一番印象的だったのは、地域住民と外国人とのつなぐ“村落住民ではない自国内外部者(NGOスタッフ)の存在”が非常に大きな役割を果たしていたこと。今後自分が現地で活動する上で重要な学びになりました。



F.C. Manis
マルヤマサチコさん

世界は海でつながっている 助成プロジェクトのさらなる可能性を探るため、海外派遣研修へ



地球環境基金の助成をいただき、磯焼けが進む三重県で県民・漁業者・企業が参加する藻苗の植林と環境教育のプロジェクトを実施しています。この活動を同様の問題を抱える海外でも行えないかと考え、インドネシアへの海外派遣研修に参加しました。現地で活動する団体に教えられることは多かったです。本部の事務方が海外政府等から資金を調達し、実際の活動は各地方に配置したサブリーダーが主導する団体には特に感銘を受けました。



(社)海っ子の森
松本一夫さん

寄付案内

寄付を通して環境NGO・NPOの活動をご支援ください

地球環境基金は、皆様の地球環境保全にかける思いを、具体的な活動につなげるための基金です。職場で、学校で、イベント会場で、多くの皆様に募金やご寄付をいただいているます。

地球環境基金へお寄せいただいた皆様の募金や寄付の中から、その一部を紹介します。(敬称略・順不同)

株式会社サイバーガジェット

ご寄付を
いただいた方の声

10年以上にわたる寄付で社員の意識も向上

ゲーム周辺機器、デジタル関連機器の企画・開発・販売を行っています。2002年から継続的に地球環境基金への寄付を行っており、環境保全に貢献する会社で働いているということで、社員のモチベーションアップにつながっています。



NTTコミュニケーションズ株式会社プロキュアメント部

グローバルな環境保全活動を支援します

私たちNTTコミュニケーションズグループは、『Global ICT Partner』として、国内外問わず多くの環境助成事業の活動実績を持つ地球環境基金に共感し、部内の「地球環境防衛隊」の取組みの一つであるリサイクル市の収益から寄付を行っています。



イベントを通じて

岩見沢市役所

毎年実施する「いわみざわ環境週間」のイベント会場に募金箱を設置するほか、地球環境基金の環境学習パネル、参加者のエコ宣言を貼るエコの木タペストリーの設置などのご協力をいただいております。



佐倉市立井野小学校

4年生の総合的な学習の時間に「井野っ子エコエコ大作戦」と題した地域のゴミ拾い「クリーン大作戦」と「リサイクルバザー大作戦」を実施。大盛況のバザーの売上げからご寄付いただきました。



販売収益から

株式会社トーカイ

環境に配慮したリターナブルボトルによる水の宅配サービス「アクアクララ」において、専用ウォーターサーバーのボトル1本を販売することに一定の金額をご寄付いただいているいます。



株式会社プレミアバンク

金融・コンサルティングサービスを行うプレミアバンクは、毎月5のつく日に社員全員で地域清掃等を行い、環境保全活動に積極的に取組むとともに、同社の収益の一部をご寄付いただいているいます。



募金箱設置など

株式会社エースランドリー

環境にやさしいオーガニッククリーニングを展開中。募金箱設置のほか、エコバッグ等の売上げの一部をご寄付いただいているます。



小平市ごみ減量推進実行委員会

環境問題に関心のある個人や団体が集まり活動を行う同委員会。小平市と共催の「こだいら環境フェスティバル」で、フリーマーケットの参加費や出展ブースの売上げからご寄付いただきました。



ご寄付の方法

地球環境基金への寄付を通して、環境NGO・NPOの活動をぜひご支援ください。地球環境基金では、金融機関からのご寄付のほか、不要品のリサイクルや本・CDの買取、募金箱の設置等、さまざまな寄付方法をご用意しています。



1 本やCDなどの買取金額が寄付されます

ご家庭や職場で不要になった本やCDなどをブックオフオンライン株式会社に買い取っていただき、その買取金額の全額が地球環境基金に寄付されます。

ご寄付の流れ

● 不要品を段ボールに詰める



● 宅配買取へ申込む

地球環境基金の情報館 (<http://www.erca.go.jp/jfge/>) の申込みフォームをご利用ください。

● 不要品がヤマト運輸に引き取られる

無料で集荷に伺います。(引き取りは30点以上から)

● 買取金額が寄付される

買取金額は全て地球環境基金に寄付されます。さらに、ご寄付いただいた金額の10%にあたる金額をブックオフコーポレーション株式会社から寄付されます。

2 金融機関からのお振込み

以下の金融機関、口座にて
ご寄付を受け付けています。



ゆうちょ銀行	00190-0-664214	地球環境基金
新生銀行／本店	普通預金 0789699	
三井住友銀行／東京公務部	普通預金 3013615	独立行政法人 環境再生保全機構
三菱東京UFJ銀行／本店	普通預金 7637448	地球環境基金
みずほ銀行／本店	普通預金 2413416	
りそな銀行／赤坂支店	普通預金 1023850	

5 全国のFamiポートから

全国のファミリーマートに設置されているマルチメディア端末「Famiポート」からご寄付いただけます。



3 オンラインで決済

VISA、Masterのクレジットカードをお持ちの方は、地球環境基金のホームページからご寄付いただけます。



*楽天銀行に口座をお持ちの方は、楽天銀行ホームページからご寄付いただけます。

7 募金箱

地球環境基金では募金箱の貸出しを行っています。企業・団体のオフィスや、環境関連イベントの会場に募金箱を設置いただけます。



4 クレジットカードのポイントを利用

セゾンカード/UICカード、三菱UFJニコスカードのポイントプログラムを通してご寄付いただけます。



8 イベントを通して

イベントの売上や、募金箱の設置等さまざまな方法でご寄付いただけます。地球環境基金では、基金の活動紹介パネル、ポスター等の貸出し、広報グッズの提供も行っています。

